

<生産者の声>

1. 神奈川県海老名市 石川 英和さん

海老名市は神奈川県の中央に位置し、従来からの田園風景と都市的な部分を併せ持つまちで、横浜や東京のベッドタウンとしても注目されています。この地域では施設での栽培を中心に、トマト・イチゴ・キュウリ・マスクメロンが栽培されています。その他にも米・花き類の栽培も盛んです。

今回は、その海老名市にお住まいの石川 英和さんがトリコデソイルを利用された例を紹介致します。石川さんは計 1,200 坪のハウスで半促成栽培のトマトや抑制栽培のキュウリをお父様、パートさんと栽培されています。トマトでは『ナチュポール(マルハナバチ)』を、キュウリでは『スワルスキー』もご利用なされています。

土壌改良材『トリコデソイル』を使用して

1. 使用した作物・時期

使用作物：半促成トマト(播種 11/12、接ぎ木 12/8、移植(鉢上げ)12/20、定植 2/3)

使用時期：移植時 500 倍と定植直前 2000 倍の計 2 回

2. 散布方法・使用した感想

散布方法

移植時：桶に 500 倍液を作り、セルトレーごと浸漬処理

定植直前：2000 倍液を動墳にて1鉢ずつ灌注処理

感想

今回が初年度なので何度か試してみなければ分かりませんが、今回の結果は非常に嬉しいものばかりでした！

育苗期に使わせていただいた後は、節が張って根量が多く非常に良い苗が出来ました。そして、定植前に灌注した苗の生育は節間が程良く詰まり、今年度の天候不順にも関わらず、後半まで疲れることなく収穫ができ、その結果、増収しました。使用することによって根量が増え、根の張りが向上したような気がします。

ただし、トリコデソイルを使用すると苗の活着が遅れる気がするので注意が必要です。

移植、定植とも例年に比べ、活着まで 4~5 日ほど遅れました(天候や地温の関係もあるので一概には言えませんが)。活着の遅延についてはデータもなく不確定なので、早めに正確な情報の入手を望みます。

3. 今後、トリコデソイルに期待したいこと

キュウリの立ち枯れ病が問題となっているので、トリコデソイルを使用することで発生を抑える手助けをすることができればと考えています。現状、私が使用しているのはリゾレックス水和剤ですが、トリコデソイルと代替農薬の併用で抑えることができればと考えております(リゾレックスでは予防できる菌の種類が限られているため)。

しかし播種時の使用を検討しているので発芽障害の危険性を心配しています。

この他にまだまだ可能性のある薬剤なので、詳しい具体的な使用方法などアリスタの方から提案していただけたら幸いです。



<特約店の声>

1. 株式会社 喜多猿八

香川県は、花きの栽培が盛んです。

特に菊(以下、キク)は、電照菊の歴史とともに有名な小豆島をはじめとして、丸亀市、観音寺市、東かがわ市等で、高齢化により減少傾向にはあるものの、100haほど栽培されています。

現在、ハウス栽培のキクにおいて、土壌改良材『トリコデソイル』の栽培圃場試験を実施しておりますので、試験経過レポートを紹介させていただきます。

■試験先の概要

キク栽培ハウスは15aで、直挿し栽培。今作の主要品種は「岩の白扇」です。

圃場は、バスアミドでの土壌消毒を毎年実施していますが、立枯病が大きな問題となっています。

今回、トリコデソイルの試験使用で最も期待する事は「立枯病の発生を軽減出来る土壌の改良」です。

4月20日に直挿しをし、その10日後の4月30日にトリコデソイルを1,000倍希釈(トリコデソイル200gを200Lの水で希釈)し、灌水チューブを利用して15aに処理しました。

今回の灌水チューブを用いた灌注処理は、有用菌の入ったペレットタイプの土壌改良資材の使用と比較して、労力の軽減と使用時期の制限のなさの両面から、高評価を頂きました！

「直挿し栽培は挿し穂を直接畝に挿すので、窒素成分が含まれるペレットタイプの改良資材の処理は、キクの生育が腰丈以上に進んでからとなる。この場合、ペレット資材が葉に乗らないように注意しながら均一に土壌表面に撒くことが難しく、時間もかかる。

トリコデソイルは、液肥混入器を利用して灌水チューブで簡単に処理できるのでとても使いやすい。

窒素成分が入っていないことも良い。」とのことでした。

トリコデソイルの希釈に関しては、「溶けやすく、溶けた後の溶液を触ってみたところ、薄い化粧水のような感じでした。」との感想でした。



6月5日に、生育状況等を含めた途中経過の聞き取りを行いました。

今回の試験の課題となっていた立枯病ですが、目立った発生はありませんでした。

発生の多い夏挿し(次作)において再度、トリコデソイルの処理を実施して様子を見る必要があると考えております。

生育に関しては、生育は旺盛、葉の数も多く、葉色はやや濃く「フラワーネット持ち上げ(上にずらす)にも前作より力が必要で、重量面からも期待出来そう」と、園主さんの感触も良いようです。

園主さんのこれまでの観察においては、「生育が旺盛であるにも関わらず、徒長も無く、葉柄も短く生育しており、特に良い点は、葉が上向き加減になっており、受光体制も良くなっていることが予想される」(右写真①上位部、写真②下位部)

また、「灌水量は前作と変えていないが、灌水後の通路の乾きが早く、生育が旺盛なことを合わせて考えると、根が増えたことによって水をたくさん吸い上げているかもしれない」との事でした。

根の量に関しては、7月中旬～8月上旬の収穫後の抜き取り調査の実施を予定しています。

今回の試験において、トリコデソイルは、キクの品質および重量の両面にメリットがあることが垣間見えてきました。更なる使用事例を積み上げながら、キク栽培生産者様の増益につながる新しい技術を確立して行きたいと考えております。



有用微生物入り土壌改良資材「トリコデソイル」の特長

- 土壌中、特に根の周りに施用することで、有用微生物トリコデルマ菌が根の表面を覆うように素早く増殖して土壌・根圏の微生物相を改善し、作物の根の健全な生育を促します。
- 施用時期を選ばず、栽培期間を通じてしっかり土づくりをサポートします。
- 善玉菌が増殖しやすい、土壌消毒のガス抜き後の苗や土壌への灌注が最適です。
- 水和剤タイプですので、使いが簡単。所定濃度の希釈液を散布器、ジョウロ、かん水チューブ等で苗や土壌に灌注します。



今後の配信、またはバックナンバーを希望の方は
下記のメール宛お送りください。

tenteki@arysta.com

今後とも弊社製品を宜しく願います。

アリスタ IPM 通信

発行人: 製品営業本部 栗原 純
編集責任者: 製品営業本部 和田 哲夫
発行者: アリスタ ライフサイエンス(株)
住 所: 〒104-6591
東京都中央区明石町 8-1
聖路加タワー38F
電 話: 03-3547-4415
メール: tenteki@arysta.com
発行日: 2015年8月4日
